

第21回

日本老年泌尿器科学会

プログラムおよび抄録集



みんなのための排泄ケアネットワーク

—— 情熱と行動のシステム化 ——



会期

平成20年 5月24日 土・25日 日

会場

北九州国際会議場 北九州市小倉北区浅野3-9-30

会長

舟谷文男 (産業医科大学 医学部 医療科学講座 教授)

共催：北九州市

口演3. 排尿ケア・計測

第2会場（北九州国際会議場2F 国際会議室）

座長 渡辺 豊彦（岡山大学医学部 泌尿器科）

泉 キヨ子（金沢大学大学院 看護科学領域 臨床実践看護学講座）

OS03-1 脊髄損傷患者の排尿管理 —尿量モニタゆりりん®の有効性—

藤井 奈緒子¹、中嶋 昌代¹、津崎 香織¹、黒崎 里美¹、仙石 淳²、柳内 章宏²

兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院 看護部¹、

兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院 泌尿器科²

● 2~3週間 指導
↓
1週間
● 客観的評価

【はじめに】当院での脊髄損傷患者（以下、脊損患者）に対する清潔簡潔導尿法（以下、CIC）の導入の際には、排尿日誌を基にCICの回数・タイミングや飲水量を設定している。しかし、膀胱尿の貯めすぎによる尿路感染や尿失禁を反復し、その後の入院生活に支障をきたしていることが少なくない。今回、尿量モニタゆりりん®（以下、「ゆりりん®」）をCICの設定に用いて有効であると判断した3例を報告する。【方法】CICが入院生活に支障をきたしている脊損患者を対象とし、「ゆりりん®」使用前・後での排尿日誌を比較した。【結果】「ゆりりん®」使用前は、3例とも膀胱尿の貯めすぎでのCICが 8.6 ± 4.9 回/週（ 229.9 ± 139.3 ml/回）あり、尿失禁や尿路感染を発症していた。「ゆりりん®」使用後は、3例とも膀胱尿の貯めすぎでのCICが 5 ± 4.3 回/週（ 178.2 ± 100.1 ml/回）と減少し、尿失禁と尿路感染は改善した。さらに、不必要なCIC実施を省いたことで夜間の睡眠障害を軽減でき、患者のQOLの向上にもつながった。【考察】「ゆりりん®」を使用する事で蓄尿状態を経時的に把握することができ、効率よく至適導尿量内でのCIC実施ができた。又、適切なCICの回数・タイミングを再設定することで、腎機能障害のリスクを軽減し、情報をフィードバックすることで患者への水分出納の意識づけを促すことが出来たと考える。

● 外出時の尿禁
安心できた
● 夜間回数減
ゆっすり眠れた
精神的苦痛
の軽減

OS03-2 おむつ内排尿高齢者の排尿実態調査

岡崎 静子¹、松房 弘子¹、根橋 勉¹、小山 貴夫²、袖野 綾子²、松井 学²

花王株式会社 ヒューマンヘルスケア事業ユニット サニタリーウェルネス 介護サポートセンター¹、

花王株式会社 ヒューマンヘルスケア研究センター サニタリー研究所²

これまで高齢者の排尿実態については、尿意がありトイレ排泄が可能な高齢者、すなわち介護用（大人用）おむつを使用していない高齢者を対象としたものがほとんどで、その排尿パターンや一回当たりの排尿量が報告されている。一方、おむつメーカー各社の介護用（大人用）おむつには、個別排泄ケアを考慮して、サイズ、タイプ、吸収力の異なるたくさんのおむつやパッド類がある。これらにはおむつ選択・使用上の目安としての吸収力を回数で表現しているが、おむつ内排尿高齢者の排尿実態は明らかになっていないのが現状である。これは、おむつ内排尿高齢者の排尿パターンや一回当たりの排尿量の正確な測定が難しいためであり、実際におむつ内排尿高齢者の排尿実態の報告文献も少ない。しかし、真におむつ使用者のためのおむつを考える時、おむつ内排尿高齢者の排尿実態を把握することは重要と考え、今回、株式会社アワジテックのセンサー付き尿とりパッド（商品名「あいパッド」）を改良し、介護老人保健施設・特別養護老人ホームにておむつ内排尿高齢者の排尿実態調査を試みた。その結果、排尿は個人差が大きく、また各種服薬の影響があることは周知の事実だが、これに加えて環境等の影響も大きいことが分かった。今後も継続調査が必要と考えているが、これまで行った調査結果を中間報告として報告する。